



令和元年も残りわずかとなりました。今冬は12月に入ってもなお日中の気温が15度以上の日があり、例年に比べ暖かな師走となっています。しかし、インフルエンザ等の感染症が流行する時季です。引き続き、うがい手洗い、喚気などをこまめに行い、感染症等の”予防”に努めましょう。

また、日頃から取り組んでいる『子どもの大切な命の守り方』につきましては、冬休みを迎える前に、ご家庭でもお子様と一緒に具体的な方法を再確認していただきますようお願いいたします。

皆様のご協力のお陰をもちまして、この一年も無事に終了できますことに心から感謝申し上げます。ご家族お揃いでよいお年をお迎えください。

覚えたことはやってみたい！

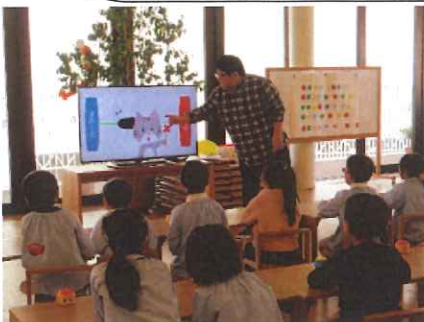
～お子様のアウトプットに気付いていますか？～

先日(11月中旬)、保護者の方から嬉しい話を伺いました。ある日、ご家庭でお子様がパジャマをたたんでいるとき、いつもと違うたたみ方をしているのに気付いたお母様がお子様(年長女児)に尋ねてみると、幼稚園で教えてもらったということ。この出来事についての確認を含めた話でした。

確かに私は数日前、数人の年長児に対し、“自分の遊び着が直ぐに判るたたみ方”として、目印が付いた前面(ポケットを含む)が見えるたたみ方を知らせました。その方法は、前面を下にして置き、両袖を片方ずつ中心に向かって折り、その後下から順番に折ってひっくり返すと、ポケットが一目瞭然という、いわゆるお店の商品棚に置いてあるようなたたみ方でした。

なぜそのようなことを知らせたのかと言えば、せっかくきれいにたたんでいても自分の棚以外に置いているとき(年長児は、1階と2階のスペースを有効活用しています)は、子どもたちが自分の遊び着を確認するために、一度遊び着を広げるなどの時間を要していたからです。このような理由から、あくまでもひとつの方法として伝えたことが近くに居た子どもたちに伝播し、そしてそれを直ぐに家庭で実行していることが分かった私は、とても嬉しかったのでした。また、そのようなお子様の姿にいち早く気づき、認める声掛けをされたお母様の対応により、お子様はこれからも知り得た情報をどんどん試し、日々の生活に生かしていくのではないかと強く感じたことでした。

今後も、園とご家庭とでお子様の変化に気付く目を持ち、お子様が自主的、自発的に活動できるように関わりを続けていきたいと思えます。



ICTを使ったプログラミング学習開始

やりたいこと(目的)を達成するためには、先ずゴールをイメージ(思い描き)し、何をどのような順序で進めていけばよいのかという考え方を、子ども自身が楽しく学んでいきます。



去る12月3日、経済協力開発機構(OECD)は2018年実施の学習到達度調査(PISA)において、日本の高校1年生の読解力が15位に後退したという結果を公表しました。これに関しては、「根拠を示して考えを述べる力に課題がある」と文科省が伝えている他、様々な要因があるかと思いますが、私たちは、これからも園と家庭とで日頃から行っている”なぜそうなのか”という考え方の習慣化にみんなで取り組み、子どもたちの論理的思考の芽生えを支えていきたいと思っています。

また、乳幼児期の子どもと関わる私たちにとっては、子どもたちの語彙を豊かにするための一つの方法として、『絵本に親しむ時間』を今後も大切にしていまいりましょう。年末年始は何かと慌ただしい日が続きますが、少しでもお子様との時間を作っていただければ子どもたちもきっと喜ぶことでしょう。